

令和 5 年度第 4 回 社会教育委員会議
議 事 要 旨

1. 開催日時：令和 6 年 3 月 18 日（月） 14:00-15:00

開催場所：八尾市立青少年センター 3 階 集会室

出席委員：二宮委員・田中委員・角田委員・大槻委員・畑委員

中道委員・赤松委員・山根委員・今岡委員・村尾委員（順不同）

2. 議事案件

1 令和 5 年度第 3 回社会教育委員会議書面表決結果の承認について

2 報告事項について

（1）第 31 回こどもフェスティバルの実施について

（2）今東光資料館企画展示の実施について

（3）令和 5 年度桂・安中青少年会館事業概要

（4）令和 5 年度八尾市指定文化財の決定について

（5）第 13 回八尾市小学生なわとび名人検定及び

第 8 回八尾市小学生チャレンジなわとび学年別認定会の結果について

（6）令和 5 年度八尾市はたちのつどいの報告及び次年度の開催予定について

（7）社会教育施設における指定管理者の指定について

①青少年施設②文化財施設③スポーツ施設

3 その他

令和 6 年度指定管理者選定スケジュール等について

3. 意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

1 令和 5 年度第 3 回社会教育委員会議書面表決結果の承認について

※全委員異議なし

2 報告事項について

○八尾市は、こども施策が充実していると考えている。桂・安中青少年会館事業のうち、子どもに関する事業が非常に充実した内容になっていると感じた。朝食を摂らない子ども、オーバードーズ（薬の過剰摂取）など、子どもを取り巻く問題が多くとりあげられている。それらの課題への対応として、小さい段階からのボランティアが重要と考えており、青少年会館でもそういった取り組みがあればよいと思う。

●青少年会館は、子どもの居場所であると同時にボランティア活動にも積極的に取り組んでいくべきともいわれている。まだ実現できていないが、今後は小さい子ども向けのボランティア活動への取り組みを研究してまいりたい。

○先ほど朝ごはんを摂らない子どもの問題の話があったが、学校及びいろんな団体の協力を得て、子ども若者政策課が事業実施している補助金も活用しながら、学校の家庭科室で朝食の提供を検討している。その中で子どもたちも一緒にお

手伝いしてくれる機会も生まれると考えている。

- 幼少の頃からボランティア活動に取り組むことは非常に重要と考えている。個人的な話になるが、二人の孫が小さいころから公園の清掃をしている。

まず一番小さな所属である家庭からボランティアの意識を育てることが、小さい時からの体験が大人になったときにプラスに働くと感じる。

学校での子ども食堂の取り組みについては、教育委員会も協力していきたい。

- 今家庭での教育がうまくいかないところがあり、社会がその役割を担う必要がある。地域と学校も連携しながらすすめていきたい。

- 八尾には各小学校区に福祉委員会が組織されており、家庭・学校・地域の連携という点でもこの組織を活用すべきである。

- ボランティア活動をすることは、子どもが受け身にならずに、社会の一端を担っていると自覚するという効果がある。また、周りの人々に対しても良い影響が生まれる効果もある。

社会全体に対していい影響を及ぼすことになろう。

- 青少年会館の事業について、具体的な数字でなくてかまわないので、どのような利用状況があったのか。

- まず、不登校児童生徒・児童の居場所づくりとして、教育センターと連携しながら取り組んでいる。過去には桂青少年会館での来館を経て学校へ復帰できたケースもあった。年齢が比較的近い学生サポーターとともに勉強や遊びをはじめ、好きな絵画に取り組んでいた。

- 安中青少年会館では、令和5年度は小学生が1名で1回、中学生が3名で25回の利用があった。会館では基本的には自由に過ごしてもらうが、図書館で過ごしたり、教室・講座のお手伝いをしてもらったりもある。

安中では、「ウィズルーム」として多目的に利用できる自習室をリニューアルした。このような施設も活用し、教育センターとも連携しながら不登校対策に取り組んでいきたい。

- 青少年会館は不登校児童・生徒の学校外での居場所として機能し、そういった子が一歩踏み出すきっかけとなっている。

3 その他

- ・令和6年度指定管理者選定スケジュール等について、次年度に選定を行う八尾市生涯学習センターの施設概要及び具体的な選定スケジュールの説明を行った。また、当会議の次期市民委員の募集を現在行っている旨説明した。